

ファイト

No-14

WBCユース・シルバーフェザー級 初代世界チャンピオン獲得

2月19日、岩井大の三迫ジムへの移籍後第一戦はフィリピンでのWBCユース・シルバーフェザー級王座決定戦となった。

真冬の日本から熱帯の敵地へ乗り込んでの一戦は心身ともにタフネスさが求められたが、試合を含めて終始冷静に対応した大は夜の10時20分開始という遅い時間にもかかわらずベストコンディションで試合に臨み、見事7ラウンド2分33秒でTKOを勝ち取り、23歳以下のWBCフェザー級初代世界チャンピオンに輝いた。

試合会場はマニラ市から南へ30kmほど下ったラグーナ州サンタロサ市のバスケットボール場に特設リングを組み立てて行われた。7人対1000人という圧倒的アウェーの中で日の丸の旗を振りながら三迫陣営が入場してくる。リングアナウンサーの両選手紹介、国歌演奏のセレモニー後に王座決定戦が開始された。

前半(1ラウンド～4ラウンド)

対戦相手のディゾン・カグオン選手の顔にジャブが小気味よくヒットする。続く右ストレートや左ボディも的確だ。ボディ打ちが実によく決まっている。前半にこれだけ決まると相手選手の後半からの動きは極端に落ちるだろう。フィリピンの選手は思い切りパンチを振ってくる。当たればいいが当たらなければ本人が消耗するだけだ。ジャブを打ってこないため戦い方は単純だ。大はジャブを起点として攻撃を組み立てる。大のパンチヒット率は高い。対戦相手の動きが極端に悪くなってきた。前半のボディ攻撃がじんわり効いてきたのだ。大はプレッシャーを更に強めボディ攻撃を強める。



後半(5ラウンド～7ラウンドTKO終了)

大は試合を終始コントロールしていたが、5ラウンド終了間際にバッティングで右頬を切った。その影響で終了10秒前に鳴らす拍子木の音をゴングと勘違いし自コーナーに戻りかけ相手の背後からの攻撃を許すことになった。5ラウンドのバッティング裂傷はヒッティングと判断された。出血が止まらなると試合をストップされTKO負けにされるが、大は相手のパンチをもらわない。止血が上手くいき、大はプレッシャーを益々強め対戦相手をロープに追い詰め狙い撃ちする。もはや勝負の行方は誰の目にも明らかになった。相手はフラフラだ。大は対戦相手をコーナーに追い詰め、距離を測ってストレート、アッパー、フックを炸裂させる。時たま相手が大振りのパンチを繰り出すスピードが遅く、大は軽々とかわす。レフェリーは相手選手のダメージを考慮しストップのタイミングを図っているのが動きから分かる。大が対戦相手をロープに詰め左右フックを決めた7ラウンド2分33秒、レフェリーは両選手の間に割り込み両手を交差させTKO宣言を行なった。

岩井 大 ファンクラブ機関紙(年4回発行)

発行者:岩井 淑

住所:〒262-0032

千葉県花見川区幕張町4-2 LM3-104

連絡先:Tel:043-272-0825 Fax:043-272-0825

URL: <http://www5.ocn.ne.jp/~ku-chan/index.htm>

Mail: iwai-8man@muse.ocn.ne.jp

2012.2.19.フィリピン



7ラウンド2分33秒 TKO勝利で新チャンピオンに

3人のジャッジの6ラウンドまでの採点は、60:54、60:54、59:55で、二人のオールマークを含め3者ともに大の勝ちを認めていた。大の圧倒的優勢のもとで試合は進められ、レフェリーはこれ以上打たれると危険と判断しTKO宣言を行なった。完全アウェーの状態だったが勝利宣言、ベルト授与には大に対し暖かい拍手が沸き起こっていた。観戦者の誰もが認める完璧な勝利だった。



第3ラウンド ディゾン・カグオン選手を捉える大の左ボディ



応援



【声援1】H・Mさん

大くんのチャンピオンベルト獲得、本当におめでとうございませう。これまでの様々な困難を乗り越えてきた大くんの努力と根性にただただ敬服するのみです。本当におめでとうございませう。

【声援2】M・Yさん

写真を見ました。大君は、やっぱりかっこいいですね。熱戦の様子が伝わってきます。チャンピオンベルトを腰に巻いた姿もまた「かっこいい」。これから、もっと上を目指していくと思いますので応援しています。国内の試合が決まりましたら、連絡ください。本当に、次の試合が楽しみです。

【声援3】N・Mさん

大君の、WBCユースシルバーチャンピオンおめでとうございませう。海外で、すぐれた若いボクサーを向こうにまわして堂々のチャンピオン。アッパレ!

【声援4】O・Kさん

昨年の苦勞が実になって掴んだ素晴らしい栄誉です。本当におめでとう! まだU23チャンピオン、真の世界を目指して更に邁進することを期待しています。

おやじのひとこと

大、おめでとう。君はWBCの緑のベルトを手に入れた。しかし今回のベルト奪取はほんのスタートに過ぎない。これからも理想を高く掲げ、その実現に向けて着実に力をつけていこう。自ら考えた練習内容と練習量は必ず結果に跳ね返ってくるのだから。